

第Ⅱ回愛媛県なわとび選手権大会競技規定

★ 参加規定

1 申し込みについて

- (1) 申し込みは締切日までに大会事務局に行うこと。
- (2) 締切日以降や当日の申し込み、ならびに出場種目の変更は一切認めない。

2 参加料について

- (1) 参加料は大会事務局が指定する方法（オンライン決済または銀行振込）により、事前に納入すること。
- (2) 事務局が設定した期日までに入金を完了すること。支払いが確認できない場合は、出場を認めない。
- (3) いかなる理由があっても、**参加料の返金は一切認めない**。大会中止の場合も、返金の対象とはならない（運営費等に充当する）。
- (4) 支払が確認できない場合、申し込みは無効とし、出場できない。

3 団体種目の参加について

- (1) 違うカテゴリーの選手がチームに含まれていても構わない。その場合、最も上のカテゴリーに属している選手の部門で出場する。

例：小学生低学年と中学年が合同で出場する場合 → 中学年部に出場。

4 健康状態について

- (1) 健康管理は保護者・チーム責任者の責任とする。
- (2) 傷害保険料を超える範囲の事故について、協会は責任を負わない。

5 棄権について

- (1) 棄権する場合は、大会前日までに大会事務局へメールで届け出ること。
- (2) やむを得ない場合は当日也可。

6 規定がない事態への対応

- (1) 規定がない事態が発生した場合は、競技部（会長・審判長・事務局等）で協議し決定する。

★ カテゴリー

- 【個人部門】未就学児、小学生1年、2年、3年、4年、5年、6年、中高生、
一般（10～20代、30代、40代、50代）、シニア（60歳以上）※中高生以上は男女別とする
【団体部門】未就学児、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中高生、一般、シニア

★ 競技種目

【個人部門】

- 未就学児：30秒スピード（前とび・かけ足とび・親子とび）、二重とび、総合
小 学 生：30秒スピード（前とび・かけ足とび・あやとび・交差とび・親子とび）
二重とび、あや二重とび、交差二重とび、三重とび、総合
中高生・一般・シニア：30秒スピード（前とび・かけ足とび・あやとび・交差とび）
二重とび、あや二重とび、交差二重とび、三重とび、総合

【団体部門】

- ダブルダッчи1分、ペアニ重とび、スピードリレー、8の字ジャンプ1分、みんなでジャンプ

★ 表彰規定

1 個人種目

- (1) 参加者全員に記録証を授与する。
- (2) 各部門・各カテゴリー・各種目の上位3名には賞状を授与する。
- (3) 個人部門総合1位には副賞を授与する。

2 団体種目

- (1) 参加者全員に記録証を授与する。
- (2) 各部門・各カテゴリー・各種目の上位3チームには賞状を授与する。

3 パフォーマンス

- (1) 最優秀賞・優秀賞・審査委員長特別賞に選ばれた選手またはチームには賞状を授与する。
- (2) 最優秀賞には副賞を授与する。

☆ 競技規定

※ 競技中にロープが切れたり破損したりした場合、出場順を改めて一度だけやり直すことができる。

※ ビーズロープ、ワイヤーロープの使用は不可とする。

【個人種目】

30秒スピード（前とび・かけ足とび・あやとび・交差とび・親子とび）

（前とび）

1 競技方法

- (1) 30秒間で前とび（両足）を何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数（着地した回数）で表す。ただし、1回旋2跳躍は1回として計測する。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

（かけ足とび）

1 競技方法

- (1) 30秒間でかけ足とびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は30秒間に右足が地面についた回数で表す。
- (3) 前回し・後回しのどちらでもよい。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

（あやとび）

1 競技方法

- (1) 30秒間であやとびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数（手がクロスした回数）で表す。
- (3) 前回し・後回しどちらでもよく、かけ足で跳んでもよい。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

(交差とび)

1 競技方法

- (1) 30秒間で交差とびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数で表す。
- (3) 前回し・後回しどちらでもよく、かけ足で跳んでもよい。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

(親子とび)

1 競技方法

- (1) 30秒間で親子とびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数（着地した回数）で表す。ただし、1回旋2跳躍は1回として計測する。
- (3) 親子とびに出場する子どもが複数の場合、一緒に跳ぶ保護者は同じでもよい。
- (4) 前回し・後回しどちらでもよく、かけ足で跳んでもよい。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

持久種目（二重とび・あや二重とび・交差二重とび・三重とび）

1 競技方法

- (1) 審判の「はじめ」の合図でスタートする。
- (2) 2回旋技・3回旋技を飛び始め、次のいずれかの場合に競技終了となる。
 - ① ロープが足に引っかかったとき
 - ② 跳ぶのをやめたとき
 - ③ 3回旋技が2回旋技や1回旋技になってしまったとき
 - ④ 2回旋技が1回旋技になってしまったとき
- (3) 記録は跳んだ回数（着地した回数）で表す。ただし、あや二重とびは手がクロスした回数を記録とする。
- (4) やめたときに両足がロープを超えていれば、その跳躍は記録に含める。そうでない場合は、その後の跳躍は記録に含めない。
- (5) 前回し・後回しどちらでもよく、かけ足で跳んでもよい。

2 試技回数について

- (1) 試技は原則1回とする。10回以上跳べた場合はその記録を採用する。
- (2) 10回に満たない場合は、直後にもう一度試技できる。それでも10回に満たないときは、2回のうち良い方の記録を採用する。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

個人総合

- I 対象は、前とび・かけ足とび・二重とび（※未就学児部門は親子とび）にエントリーした選手とする。

- 2 各カテゴリー内において、前とび・かけ足とび・二重とび（※未就学児部門は親子とび）の各種目の順位を合計する。合計値の少ない選手を上位とし、個人総合の順位とする。
- 3 合計順位が同じ場合は、次の優先順位に従って決定する。
 - ① 二重とび（※未就学児部門は親子とび）
 - ② かけ足とび
 - ③ 前とび

【団体種目】

ダブルダッチ 1分

・1 競技方法

- (1) 1分間で「ダブルダッチかけ足とび」を何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は1分間に右足が地面についた合計回数で表す。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

・3 選手構成について

- (1) 出場者は ターナー2人、ジャンパー1人の3人1組とする。
- (2) 小学生中学年部門以上では、ターナーに小学生を1人以上含むことが必要。
- (3) 未就学児部門および小学生低学年部門では、ターナーは誰でもよい。

・4 ロープについて

- (1) 使用するロープの長さは自由とする。

・5 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに団体記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

ペアニ重とび

1 競技方法

- (1) 1分間（30秒間×2人）で、二重とびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は1分間の合計跳躍回数で表す。
- (3) 途中でロープが引っかかるても、競技は続行できる。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きがあったりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 交代（スイッチ）について

- (1) 競技開始30秒後に交代の合図が鳴る。
- (2) 合図前にロープを回し始めたり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スイッチとなり、合計回数から-10回減点される。

4 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに団体記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

スピードリレー

1 競技方法

- (1) 2分間（30秒間×4人）で、かけ足とびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は2分間の合計跳躍回数で表す。
- (3) 途中でロープが引っかかるても、競技は続行できる。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。

- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きがあつたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 交代（スイッチ）について

- (1) 競技開始30秒後ごとに交代の合図が鳴る。
(2) 合図前にロープを回し始めたり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スイッチとなり、合計回数から-10回減点される。

4 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに団体記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

8の字ジャンプ1分

・1 競技方法

- (1) 1分間で「8の字ジャンプ」を何回跳べるかを競う。
(2) 記録は1分間の合計跳躍回数で表す。
(3) 途中でロープが引っかかるても、競技は続行できる。

・2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
(2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 跳び方について

- (1) 1人が1回ずつ飛び、跳んで抜けた後に次の人が跳ぶ。
(2) 2人同時に跳ぶことはできない。

・4 選手構成について

- (1) 選手は3名以上とする。上限人数はない。

・5 ロープの回し手（ターナー）について

- (1) 小学生部門では、ターナーに小学生を1人以上含むことが必要。
(2) 未就学児部門では、ターナーは誰でもよい。

6 ロープについて

- (1) 使用するロープの長さは自由とする。

7 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに団体記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

みんなでジャンプ（1分）

1 競技方法

- (1) 競技時間は1分間とする。
(2) 時間内であれば何度でも挑戦できる。
(3) 記録は、開始ブザーから終了ブザーまでに記録された最大跳躍回数を基にしたポイント制とする。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
(2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、最大跳躍回数から-10回減点される。

3 ポイントの計算方法

- (1) 「ジャンパーの人数 × 連続で跳んだ最大の回数」を基本ポイントとする。

※計算例

- ①ジャンパー3人で200回跳んだ場合 → $3 \times 200 = 600$ ポイント
②ジャンパー15人で60回跳んだ場合 → $15 \times 60 = 900$ ポイント
③ジャンパー30人で20回跳んだ場合 → $30 \times 20 = 600$ ポイント

4 選手構成について

- (1) 選手は3人以上とする（ロープの回し手2人を除く）。

(2) 上限人数はない。

5 ロープの回し手（ターナー）について

(1) 小学生部門では、ターナーに 小学生を1人以上含むこと が必要。

(2) 未就学児部門では、ターナーは誰でもよい。

6 記録の確認

(1) 競技終了後、審判が直ちに団体記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

【パフォーマンス】

1 人数について

(1) 出場人数の制限はない。

(2) 1人以上あれば、何人でも参加できる。

2 なわとびについて

(1) 使用するなわとびの種類は自由とするが、ビーズロープ・ワイヤーロープの使用は禁止とする。

3 評価基準について

(1) 音楽に合わせているか。

(2) 楽しそうにパフォーマンスをしているか。

(3) 見る人を楽しませる演技構成になっているか。

4 演技時間について

(1) 演技時間は 30秒～75秒とする。